

日本語学習支援者ネットワーク事業

平成15年度  
第1回日本語学習支援者ネットワーク会議報告書

日時：平成15年6月14日（土）  
場所：宮崎県国際交流センター 多目的研修室

主催：財団法人宮崎県国際交流協会

【当日参加者】 14名

【財団法人宮崎県国際交流センター】

・高柳 香代



## 1 団体事例発表

事例 1 宮崎県日中友好協会 発表者 事務局長 菊地 義男氏

### 平成 15 年度日本語教室の主な事業計画

みなさん、こんにちは。私は宮崎県日中友好協会の事務局長をしております。菊地と申します。

宮崎県日中友好協会では、中国帰国者のための日本語講座を昭和 60 年から開催しております。毎週日曜日に 2 時間程度、10 時～12 時までなんですが、「子ども達のための夏季児童学習会」を 7 月から 8 月にかけてやっております。また、特別講座ということで年 4 回の施設見学や、学習の成果発表のために「日本語弁論大会」を開催しております。それから、講師と生活相談員、自立相談員という人たちが、県の生活援護課の任命を受けて活動していらっしゃいます。この方々と一緒になって中国帰国者の社会参加の促進を目的として活動しております。

日本語教室を振り返ってということで、昨年度の事業ですけれども、去年は中国より李鵬・全国人民代表大会常務委員長委員長が来宮されて、中国帰国者の皆さんも歓迎式典に参加しております。当日は、約 200 名の帰国者が、宮崎県立芸術劇場で歓迎をしました。また、宮崎市国際交流協会と協働での料理教室に参加しております。料理教室は、宮崎市公民館で行いました。もちろん他の団体との、例えば「ひめの会」などの協力もいただいております。

日本語教室の開校式ですが、毎年 5 月にやっておりますが、ほとんど帰国者の方がこう写真には写っていますが、後ろに見えるのが、日本語教師の皆さんです。

そして、パソコン教室を宮崎市民活動支援センターの協力を得て開催しております。また、7 月には、トキの故郷の中国・洋県の子供達 5 名と、中国帰国者の子供達と一緒に交流をしました。お互いに中国語ができるということで、交流が更に深まったと思います。

中国帰国者には日本語だけでなく、制度についても理解をしてもらうということで、教養講座では介護保険・生命保険について話をしました。中国にはこのような保険制度がありませんので、外部講師・専門家を招いてやっております。10 月にはピクニック・日本語弁論大会を実施しております。1 月にはお茶・お花の日本文化紹介では、ひめの会だったと思いますが、協力いただいてやっております。

2 月には宮崎市の「市民活動フェスティバル」に参加しております。これは、中国帰国者の方を中心に、日本文化紹介は宮崎市国際交流協会の協力を得て開催しております。日本語弁論大会は今年で 19 回目になるんですが、なかなか長くなりますと、マンネリ化するところがあるんですけれども続けております。

施設見学ということで、都城の関ノ尾の滝と霧島神宮を訪ねております。どうして施設見学で霧島神宮かと思われる方もいらっしゃると思いますが、神社での作法がわからないということで、宮崎神宮でもいいのですが、ちょっとおもしろくないので、霧島神宮にしました。帰りに関ノ尾の滝 これはちょっと中国 にはない自然なので、東北地方とかには、多少観られますが、そこに行かないと観られないということで、参加者には、非常に好評でした。

いよいよ本題ですが、今年の活動ということで、既に終了した事業もありますが、4 月

には、「宮崎の味講座」を開催しました。

5月には日本語教室の開校式を行いまして、そして、特別講座ということで、「契約をめぐるトラブル」ということで講座を行いました。最近、新聞等でも報道されていますが、この間は県内の高校出身者に一斉に請求書が送付されるということで、このようなトラブルなどについての講座を開催しました。外部講師として、県の消費生活アドバイザーを招いて講座を行いました。

6月ちょっと無理なような気がしますが、「家庭料理教室」を開く予定であります。

7月6日にはこれは決まっておりますが、「みんなで楽しむ浴衣教室」「夏季児童学習会」を予定しております。

そして8月は「キャンプ」を計画しております。

また、9月は特別講座で「帰国者の体験発表会」を行います。

10月は「レクレーション・焼肉会」の開催、そして「第4回インターナショナル・フェスティバル」へ参加するつもりです。

11月には特別講座「みんなの健康」ということでやりたいと思っております。中国帰国者の人たちは70世帯の200名（宮崎市）しかいないのですが、なかなか日本の生活になれないということで、アル中や精神病で健康を害されております。そこで、この特別講座を開催します。そして、第19回日本語弁論大会を開催予定です。

特別講座として、1月には「経営者として」を開催いたします。事業で成功して経営者として十分やっておられます。宮崎市でも4、5名の方が成功しておられます。

2月は宮崎市国際交流協会の国際交流イベントに参加予定であります。また、施設見学は延岡市の旭化成などを見学しようかと思っております。

3月には「大学進学と私」ということで、帰国者の子どもを講師に招いて、私達のやっている日本語教室と関連づけてやろうということで予定しております。

日本語の習得の目的、例えば、皆さんのやってらっしゃる日本語検定に受かるとか、学校で教えるとか、留学生に教えるとかあると思います。私達がやっているのは中国帰国者が日本の生活に適應できる日本語の習得を目指して活動しております。その中でどうしても魅了ある教室ができるかということで、先ほど言いました施設見学とか、行事に参加するとかやっています。それと今までやっていないんですが、講師のための講習会が本当は必要だと思っております。これは外部講師を招いて行うことを考えております。また、講師だけでなく生活指導員・自立指導員など一体化してやらないと日本語教室はうまくいかない。予算や教材など課題は多くあります。中国帰国者の自立ということで、講師、自立指導員、生活相談員が一緒になって自立させる。このためには、やはり社会・地域の人達が協力してもらうということが大切だということを、願って私達は日本語教室を開催・運営しております。



### 宮崎日本語教師会の設立と活動について

はじめまして。岡田と申します。田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもの会は、私と田中ともう1人和田という者がおりまして、今日は、仕事の都合により、残念ながら参加できなかったのですが、3人でこの4月にこの「宮崎日本語教師会」を設立いたしました。このプリントを配布していただいてますが、お持ちでしょうか。このプリントに書いてあることが全てと言えば全てなのですが、設立した目的としましては、そこに書いてありますように、日本語を第一言語としない人々に対する日本語教育の支援・指導を通して、国際交流に寄与することを目的としております。具体的には個人・企業・学校施設において、日本語学習の支援・指導を必要としている人たちに対し、各学習者のニーズ ニーズというのは、何を勉強したいのか。何を必要としているのか何が必要なのかということを考えてそれを分析して、その人のグループ・個人にあった日本語指導・支援を行っております。

設立してまだ日が浅いものですから、活動というものもまだ1つだけになりまして、ここに書いてある5月12日～6月6日約1ヶ月の間、カナダからの学生2名が清武町にホームステイで来まして、その学生たちに生活するための日本語を指導いたしました。今、私達がどんな活動をやっているかといいますと、普段は1人1人がばらばらに活動しております。私（岡田）は南九州短期大学で非常勤講師をしておりまして、留学生に日本語を教えております。そして、プライベートレッスンを行っております。私は（田中）は鹿児島県にあります第一工業大学で非常勤講師をしております。プライベートレッスンも1名受け持っております。和田ですが、えびの高原専門学校にて非常勤講師をしておりまして、併せて、プライベートレッスンも受け持っております。

私達は、まだ若い3人でありまして、まだまだわからないこと、手探りの部分がたくさんございます。皆様にご協力していただいたり、ご指導していただくこともたくさんあると思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



事例3 まちなか国際交流会 発表者 久高 啓一氏  
後藤 美智子氏  
朝賀 智絵氏  
鵜戸西 努氏

---

### まちなか国際交流会の設立と活動について

みなさんこんにちは。私はまちなか国際交流会の副会長をしております久高啓一と申します。本日は代表である小野田というものが、現在、東京に仕事の関係で1年滞在することになりましたので、変わりに本日は私が、この場に立たせていただいております。私達の会は現在10名なんですが、簡単に自己紹介させていただきます。

まず、私は久高啓一と申しますが、現在、青年会議所にも入っております。私は国際結婚しておりますので、台湾の方なんですが、その関係で宮崎県日中友好協会とも交流があります。これとは別ですが、たまたま偶然が積み重なってこの会ができました。

私達のまちなか国際交流会は本当に最近できた団体ですが、できたきっかけは会長の小野田さんが個人的に国際交流を实践されていて、中国から来られた方を交えて餃子のホームパーティを開催されたんですね。その中の何気ない会話の中から、意外に中国籍の方とか支援・サポートがされていて、それ以外の方の見えない在住外国人の方いらっちゃって、そういう方たちが日本語を、実際話す・話せない。宮崎は東京と違って国際的とはなかなか言い難い部分があって、かなり苦労されているという声を聞きました。そこで、国境にしばられないというか、中国以外の方、ヨーロッパやアフリカ方でも問題ないといことで、英語から日本語中心になると思いますが、日本語を理解していただいて、ゼロから学んでいただいて、更に継続して学んでいただいて、言葉の問題、習慣の問題を取り除いていただこうということで、いろいろなプログラムを考えております。

私達の会の活動は大きく3つあります。1つ目は、東京都武蔵野市 日本で国際交流が1番盛んな都市の1つですが、ここの武蔵野市国際交流協会が行っているプログラムや地域の交流活動から学んで、いいところは宮崎に紹介して取り入れていこうという活動です。2つ目は在住外国人支援です。これにはいくつかの活動が考えられますが、現在は日本語教室の活動を考えております。そして、最後は連携とネットワークです。私達も人的にかなり制限されてます。たくさん数はおりませんので、いろいろな会の方と力をあわせてというか、情報を団体間で共有して、自分達の不足部分をそれぞれ補うことで活動を続けることを考えております。ではここで、それぞれの担当にこの3つのことについて更に説明させていただきます。

(後藤美智子さん)

今、お話がありました、武蔵野市の事例についてお話ししたいと思います。武蔵野市は国際交流が盛んでもありますが、地域を上げての日本語支援も盛んでして、前月5月24日に、会長の小野田、私、鵜戸西さんとで見学に行って、武蔵野市国際交流協会(ホームページ: [www.mia.gr.jp](http://www.mia.gr.jp))の事務局長さんにお話を伺って来ました。この冊子はプログラムがいろいろ掲載されてまして、後でどうぞご覧ください。武蔵野市国際交流協会について、簡単にご説明しますと、事業が大変たくさんあるんですが、日本語学習支援も大きな柱です。それ以外に、いいなと思った活動は留学生のファミリープログラム\*「留学生」むさしのファミリープログラム これはホームステイではなくてお宅に泊まるのでは無く、ホームビジット・伺ったり一緒に買い物に行ったり、留学生が日本の生活に溶け込める、家庭というも

のが解る大変いいなと思って、会としても注目しているプログラムです。

この他は、子どもたちが外国人の人に早くから触れる取り組みをされていて、このプログラムでは、地域に住んでる外国人を講師に招いて文化紹介や言語紹介などで、交流をしてもらっています。＊「こども国際交流クラブ」

武蔵野市は周辺に大学を多数抱え、留学生を中心として外国人の方が多く住んでいます。その相談業務も事業としてやってらっしゃいます。協会で独自のネットワークを組んで、協会を中心に日本語が話せる外国人の方と契約して21言語でサポートをしています。すごい幅広い言語でサポートしています。＊外国人のための無料総合相談会

(朝賀 智絵さん)

こんにちは、私の方からまちなか国際交流会の日本語教室についてご説明したいと思います。実績というかアンケートをやりまして、配布した場所は、市内の英会話スクール、あと宮崎県国際交流センターなどです。実際「どんなことが勉強したいのか」というニーズを把握するために、このようなアンケートを行いました。回収できたのは40枚でした。本来であれば資料を配布なのですが、今日は、口答で簡単にどのような結果がでたのか述べたいと思います。

皆さん「日本語に興味があるか」という質問に対してはほとんど「ある」ということでした。「実際どのようなことを勉強したいのか」という問いに対しては「日常会話」が60%でそれから、「聴解」が50%、「読解」が40%でした。興味深いのは学習歴が多い方で6年くらい自分で勉強したという方がいらっしゃったんですが、そんな方でも、日常会話にをつけていて、長く勉強されているかたでも、日常会話を勉強したいという気持ちがあるんだなと思いました。他に、宮崎弁にをつけた方もいらっしゃいましたし、ビジネス会話というのにをつけた方もいらっしゃいました。学習歴が3ヶ月未満という方も多くて、全く勉強したことがないという方もいらっしゃいました。それから、「宮崎での生活で不便なところは」という問いに対して、「挨拶と生活習慣がわからない」「交通が不便である」ということと「全レベルで対応できる日本語教室がない」ということを上げられていました。私としてもこれは、是非事業に反映させていきたいと考えているところです。「日本人と外国人の間に障壁がある」と回答している方もいらっしゃいました。「宮崎弁に苦労している」「コミュニケーションが取れない」「情報をどうやって得たらいいかわからない」この他に日本語のことではないですが、何人かが「湿気に困っている」という回答が寄せていました。

そして、「日本語を勉強したい理由」という項目で上がっていたのは、やはり「日本人と会話がしたい」という方がほとんどで、その他に「日本語検定試験に合格したい」ということをあげている方もいらっしゃいました。このアンケートを、基に日本語教室のカリキュラムを考えまして、次の3つのコースを考えています。

- 1 テキストを中心に文法をしっかり勉強するコース  
(将来的には全レベルに対応させたい)
- 2 短期滞在型の在住外国人、留学生等の配偶者に生活に最低限必要な会話(買い物・郵便局での会話など)を学べるコース
- 3 てげてげナイトの開催  
月2回 日曜日の夜に開催する1回完結型の日本語教室  
テーマ別で前半で表現を覚えてもらい、後半で日本人と話してもらう。  
最初の2つのコース参加者にも参加してもらって、実際に日本人と交流してもらおうというのが主旨。

また、毎回ではないのですが、料理をみんなで作ったりなど、宮崎の人と話す機会を作っ

てもらおうというのが目的です。現在はまだ企画・調整中でして、また決まり次第、皆様にお知らせしようと思います。

今月の6月29日(日) 18:00~に「てげてげナイト」を、JOYルームという鵜戸西さんにご提供いただきました場所を借りて開催予定でいます。

世話人をしております鵜戸西と申します。私が教会の牧師をしておりまして、教会での活動以外の時間で場所が空いております。事務所のような形になっており、「JOYルーム」としてしています。そのような経緯で、この「まちななか国際交流会」の事務所として使っております。もし皆さんの中でもご利用いただければと思います。

副会長の久高ですが、現在、みんなでがんばっております。まだ、設立したばかりで試行錯誤やっておりますが、日本語を勉強するということは、ここにご参加の方も十分お解りだと思いますが、簡単にはいかないと思います。継続してやっていくということがとても大事だと思いますので、息の長い活動を続けていくためにも、NPO法人化を含めて、多くの方に利用していただける万全の体制を作っていきたいと思っています。





## 2 意見交換会

### 課題1 活動の団体・ボランティア活動の時間の調整・日程の調整

参加者：説明されましたまちなか国際交流会に質問があります。自分が中国・フィリピンの方に自分なりに一生懸命にやっていることが、日本語指導、未来将来像の観点に立って聞くと、(目的が)あっている。現在、土曜日しか休みがないので、活動に参加するのに曜日の限定があるのか。

まちなか国際交流会：大丈夫です。

参加者：私は今は活動はしていないが、。自分のあいている時間を有効に使えないかとは思っています。現状、土曜日しか出て来れない。

在住外国人支援団体 Helping Hands 会員

会員がそれぞれの仕事や家庭がありながら、時間を調整しボランティア活動を20年間続けています。

20年間の間、宮崎に旅行してこられた外国人旅行者、在住外国人に携帯電話を使って、情報提供などの活動を行ってきましたが、ここ3～4年では深刻な問題の相談が寄せられるようになってきています。単純にイベントの問い合わせ、交通手段とかだったものが、5～6年前から、離婚問題や不当解雇の問題など、電話だけでは対応できないことが多くなってきました。そういう支援活動も続けていきたいと思いますが、それにプラスして、現在新しい活動に取り組みはじめてばかりです。県国際交流センターで行われている日本語教室の後に、30分を利用して学習された日本語を使いませんかということで、おしゃべりで日本語を使ってもらおうという活動です。思いつきは今年1月で、2月から4月までは会員が仕事等で忙しくて、やっと形になったのは6月でしたが、今2回開催したところです。入門編の方が終わった後を、なかなか捕まえないのですが、オーストラリアの方とか受講生が何人か残ってお話してます。教室の内容と連携しようと思っていましたが、授業内容はセンターにいと聞こえてきますので助かります。お互い自己紹介をして、お話しています。かな文字は皆さん読めるし、書けるので、短時間で受講生の方はよく覚えているな、半年でここまで覚えるのかなと感心してます。初級のほうは、香港とオーストラリアの方で日本人の友達がいるけれども、みなさん英語で話すので日本語がなかなか練習できないということでした。7月にはアンケートをとってニーズを把握したいと思っています。とにかく話をすることによって焦点を絞って、私達もここに来ればだれかが日本語で話してくれる人がいるということによってやりたいと思っています。そして、活動をしたい理由、何かテーマなりあると話しができる。何か仕掛けをおこして話す環境を創ることを、まちなか国際交流会の方が「3つの日本語教室のやり方」でやろうとしているのは素晴らしいと思いました。やはり私達には出来ないなと思います。例えばテキストを使って文法中心にするとかいうことは。しかし、「てげてげナイト」はとても楽しそうだなと思いました。意図するところは私達の活動と同じだと思いました。

民間の団体は受講者・受益者のニーズに答えてすぐ事業化できる。どうやって形にするのか。

「宮崎日中友好協会の事業化までの経緯」宮崎県日中友好協会会員

今までの経験からいろいろなグループがいる。他の団体と協力できるということから事業計画を立てることができる。宮崎市国際交流協会・ひめの会等。例えば、留学生が来ている。ほとんど日本語ができない。宮崎県日中友好協会の日本語教室運営目的は帰国者のため。けれども、留学生は今言葉が欲しい。学校に行く言葉が欲しい。そのための日本語教室が定期的に行われることが望ましいと思います。日本語教室は無料で毎週日曜日やっている。いろいろな協力体制と失敗を重ねながら、いかに魅力のあるものにしていくのか、最初の段階で示してみても、事業をしても失敗する可能性もあるかもしれない。少しずつやっていくのが大切だと思います。

## ニーズと教え方の問題

宮崎日本語教師会会員

やっていることが違うので、初級の段階ではある程度のところまではみんなが同じ感じ。中級に入ると目的がはっきり分かれてくる。能力試験に受かりたい人、仕事で必要なことなど、学校では目的別に皆に分けて教えることは難しい。ニーズに合わせられない。初級段階では教師が目的を持ってやる。これをやるのは将来のこのことを実現させる、だからこれなんだと教師側が提示するということになると思います。

大学での講義に対応できる単位を取れる日本語を大学では教えるので、ゼロ学習から徹底的に教え込む。とにかく授業がわかる日本語を教えるということです。

プライベートレッスンだと職場で日本語、生活の日本語、なるべく実生活に即した日本語を教えています。社会人の方は、書いた入り読んだりすることよりも、話す日本語が主体。併せて、最低限の文法を教えます。

参加者：初級の方に日本語を授業終った後で、ボランティアが教えることが邪魔になることはないのか。勉強の過程で邪魔になることはないですか。

宮崎日本語教師会会員

例えば10あるうちの3までの文法で接することは支障ないと思いますし、受講者も話してもらえる機会が持てて、うれしいと思います。しかし、5～10の内容を持ってくると混乱する。自分をコントロールすることができない。文型と語彙をも強いることになると思います。

## 他団体との協働

日本語教室や在住外国人支援の分野では協働が進んでいる。お互いに知り合うということで、活動に幅が出たり、情報を共有化できる等利点がある。

参加者：イギリスでの福祉の仕事に従事した経験があります。国際交流という枠ではなくて、サポートしてくれる枠があるごく普通の支援活動を知イギリスで知りました。例えば中国人の家族と一緒に過ごして、言葉・文法的にはきちんとはしていないが、話しているとすっきりした経験もあります。言葉の壁もあるかもしれない。受け取る県民の体制も大事なのではと思っています。法的な問題が山積しているのも感じます。特殊教育関係で外国籍の障害者の子ども達など、どのようにサポートするのか。教師はリハビリさせたいが、日本の保障は受けられない現状をどう捉えるのか。そのケースが今後増える可能性もあるとおもいます。

それと、1つは外国の方に言葉・習慣について理解できるような環境作りとサ

ポート体制づくり、2つ目には、県民の方々が支援活動を理解してもらえるような啓発活動、どんな活動をしているのかを情報発信することも大事ではないかと思っています。

参加者：大学の3回生です。異文化コミュニケーションを専攻。担当教授がカナダ国籍です。普段は文法的な側面での日本語支援を行っている。  
学生の中からみた外国人教授は、アジア系の先生は日本語がよくできる。文法も微妙な差異も取得している。欧米系の先生は日本語できる先生とは、日本語で、出来ない先生はやはり、英語でコミュニケーションを取っている。  
異文化理解の基礎知識の習得は大事だと思います。

参加者：私は15年前に日本へ来ました。帰国者です。1つずつ日本語覚えました。来たばかりの人に日本語を教えていました。県の自立指導員をしています。経験からしてすごく難しい。ふつうの会話もちろん重要です。困ったとき、病気になったとき。まだ日本語が話せない。周囲の人に伝えられない。生活面のサポートが大事だと思います。精神面での社会法律などのストレスからくるもののサポートも同時に必要だと思います。

参加者：日本で生活するために日本に帰った来た人、向こうで教育背景がまったく違った人の支援活動が多い。難しいですね。対応がやさしすぎてもいけない。必要としているものだと興味を持って勉強するが、外れると関心を失う。若い人だと日本語検定試験が近づく自信を失う。一人っ子政策でわがままな子も多い感じも多少ありますし……。日本語学習意欲の継続も簡単ではありません。二国間で揺れる事情もあります。指導する側の指導力も継続することが大事ではないでしょうか。専門の人が教えることがボランティアが邪魔をするというのは無いと思います。学習者には多様な環境が整っていることが大事ではないか。いろんな環境で一緒にやっていくのがいいのではないかと、そう思います。

外国人の生活サポート。専門性。周囲の皆さんのサポート。交流の場の仕掛け方。  
日本語の本職とボランティアとの2分化されている。県民の積極的な啓発のためにボランティアの活動は大事だと思います。

参加者：本当にそうだと思う。中国帰国者の取り巻く市民のいかにサポートしてくれるかが大事だと思います。私達だけがやるだけでは、市民の理解が得がたい。言葉の壁があってもうまくいかないことが多い。中国帰国者のために言葉の障害を無くすために、言葉の壁を取り除くために日本語教室を運営している。

県内5つ。あらゆる機会を提供して言葉の壁を取り除く、市民の方が情報を取れる状態にしておく。日本語運営の在りかた。発信の場として協会を利用して欲しい。

参加者：ネットワークや国際交流・協力団体同士の交流とか情報交換の場はあるのか。

協会：国際交流懇談会を開催をしていたが、今年はちょっと見直しのために調査を今年しています。それぞれの目的にあったネットワークでつながっていく例が増えてきています。この日本語学習支援者ネットワークもその1つです。

## おわりに

昨年新規事業として立ち上がった事業・日本語学習支援者ネットワーク会議を今年も開催することができました。特に今回、新たな2団体が参加し、宮崎での日本語学習者の支援体制が厚みを増してきた感があります。

今回の会議では「連携」という点からの意見が多く出されました。連携の利点を挙げてみると、情報交換や経験・ノウハウの共有化、様々な個人、団体の活動を知ること、自らの活動を見直す良い機会となることがあります。この他にも、お互いに励ましあったり、悩みを共有することで、お互いの活動の刺激になることもあると思います。今回の会議のやりとりでも、このような場面を多く見られました。

連携を継続・充実させるためには、次のことが大切と言われています。

- 1 目的をはっきりさせる
- 2 自主性を発揮できるよう、等身大で活動する
- 3 お互いの活動・個人を認め合う
- 4 対等なパートナーとして認め合う
- 5 情報は公開、共有する
- 6 責任の所在を明確化する
- 7 成果はお互いの財産にする

お互いに連携をして活動を続けていくと、人の交流も活発になり、人的にも活動時間的にも余裕が生まれてきます。それによって、新たな活動のニーズや人も見えてくるという効果が生まれてきます。

会議の中でもありましたが、地域住民の理解を得るためにも、この効果を最大限生かして、活動が1つの社会資源として機能することが必要ではないかと思いました。

今後もこのネットワークが、日本語学習者の支援に関するよりよい活動ができるよう期待し、今後も会議を通して、支援の在り方を一緒に考えていきたいと思います。

財団法人宮崎県国際交流協会  
日本語学習支援者ネットワーク  
担当：高柳 香代